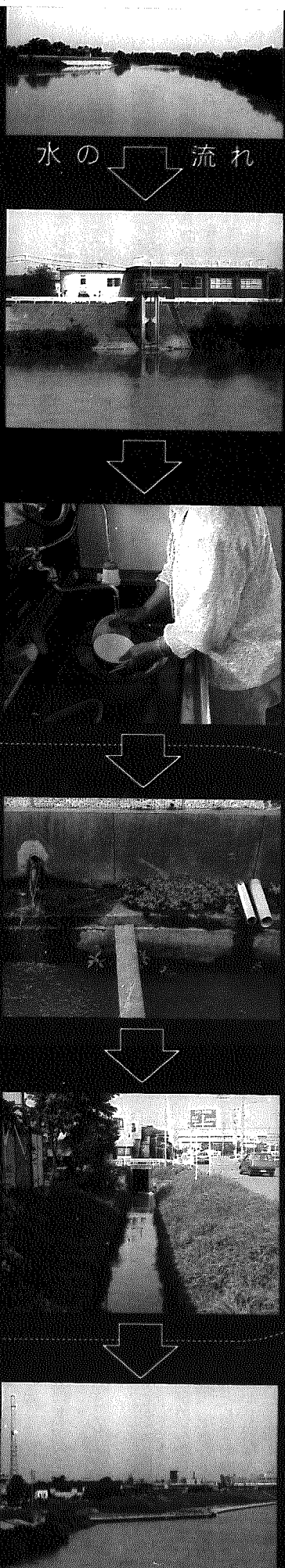


# 水に流せない下水道の話。



水の流れ

①中の口川と水道の取水塔。ここが水道の源水です。中、中の口川の水质をきれいにしないと。

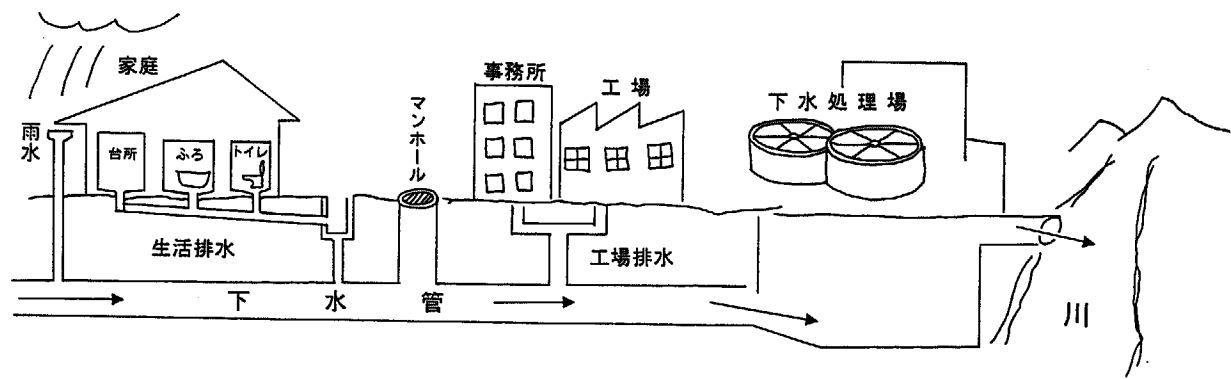
②家庭の台所で水道は毎日使われています。

③家庭からの雑排水や水洗便所からの排水などが流れ出る。

④排水路。黒埼町の場合ももとは農業排水路であり、ここに雑排水も流れる。

⑤中の口川の排水口（大野）再び中の口川へ。ほかに信濃川、西川、新川へ排水される。

昔から「湯水のように使われる」と言われるように、とてもありふれた存在である水。しかし、水なしにはヒトを含めたすべての生き物は生きていくことができません。私たちは毎日の生活の中で、使った後の水についてはどうでしょうか。「水に流す」ことになんとかなると思いがちですが、果たして下水でも通用するのでしょうか。使った後の水について考えてみましょう。



## 生活雑排水などを処理

毎日の生活の中で、私たちは水を使っています。料理、洗濯、入浴・洗面など。しかし、食器を洗った水、洗濯や入浴などで使った水（生活雑排水といいますが）、家庭でためておくわけにはいきません。どこかへ流してしまわなくてはなりません。

こうした生活雑排水や水洗便所からの排水、また雨水などを処理したりして河川などへ流し込む仕組みが下水道と呼ばれるものです。

下水道の四つの働き  
下水道には、次のような四つ

# 1 下水道とは何か

水びたしにならないよう雨水を排除することです。水をきれいにするための処理を行わず、そのまま河川などへ流します。

（黒埼町でも現在、事業が進められ、大野や川原など一部地域で、すでに供用されています）

## ②公共下水道

都市計画区域内で、市街地の家庭雑排水や水洗トイレからの排水を、処理場で処理し、きれいな水にして河川などへ流します。

市街化区域外で、自然環境の保全・農山村の生活環境の整備

の働きがあります。

①ハエやカの発生を防いだり、伝染病を予防したりする。

②水洗トイレが使える。

③大雨が降っても町が水びたしにならないよう雨水を排除する。

④汚れた水を処理してきれいな水にし、川や海の水が汚れるのを防ぐ。

## 下水道の種類

下水道法の認可を受ける下水道には、公共下水道、流域下水道、都市下水路の三種類があります。

①都市下水路  
目的は、大雨が降っても町が

を行うものとして、特定環境保全公共下水道があります。

## ③流域下水道

二以上の市町村からの汚水を集め、一括して終末処理場で処理し、川などへ放流するもの。終末処理場と市町村を結ぶ幹線は県が設置・管理し、各家庭から幹線までの枝管は市町村が設置・管理（公共下水道）します。

※下水道法の認可を受けないが、農業振興地域内で、農業集落のし尿・生活雑排水・雨水を排除処理するための農業集落排水もある。

## 県内のもよう

普及率はわずか14%  
新潟、亀田、横越などは実施

さて、新潟県の下水道普及率は14%（昭和61年度、全国平均は37%）です。全国レベルと比べ、17年遅れているともいわれています。

県内での下水道事業の実施状況を見ると、新潟市、長岡市など31市町村で公共下水道が、また、都市下水路は村上市、新発田市、黒埼町など17市町で実施されています。

近隣市町村では、新潟市、亀田町、横越村で公共下水道が実施されています。これらの市町村は信濃川下流域下水道（新潟処理地区）に含まれています。

